

世界の国を知る 🌐 世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来



モンゴル国



【表紙の写真】

子羊と子ヤギと子ども(右上)

この女の子は遊牧民の子どもで、
両親は首都へ出稼ぎに行っています。
小さくてもお手伝いをしっかりし、
子ヤギを捕まえるのもお手の物です。

草原のゲル(左下)

4月中旬のモンゴルの草原。
青い空の下に広がる緑の草原。
点々と白いゲルが立っています。

 寺田美穂

Contents

01 こんな想いを込めました!

02 こんな教材です!

03 なぜモンゴル国?

第 1 章 モンゴルってどんな国?

=大草原に息づく遊牧の暮らし=

05 モンゴルあれこれクイズ

07 体験! モンゴル遊牧ライフ♪

11 ちょっとブレイク

第 2 章 ヘえ〜! モンゴルと日本

13 モンゴルと日本つながり世界地図

15 ぼくんちあたしんちカレンダーを作ろう!

17 フォトギャラリー「これなーんだ?」編

第 3 章 一緒に考えよう! こんな課題

19 ふわふわカシミアと大草原

21 しあわせ家族について考えよう

25 フォトギャラリー「もこもこモンゴル」編

第 4 章 そして未来へ

27 『多文化共生社会』ってどんな社会?

28 号外!号外!20年後の新聞です

★参考資料★

31 目で見るモンゴル

33 モンゴル地図

35 参考文献・データ等の出典

35 ご協力いただいた方

35 執筆・教材作成チーム

こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい!!つなげていきたい!!
そんな想いが本書作成のきっかけでした。

● 国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」は決して難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

● 人の顔が見える教材をつくりたい！

「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることもちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へえ～。こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

● 世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさん問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくるとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係ができればいいなと思います。

● 未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起こっていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起こっていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。

こんな教材です！

次のようなことを考えて作りました。

●ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としています。本書自体は、ファシリテーター（参加型プログラムの進行役）や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

●参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけでなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえようなプログラムにしました。基本的には4～6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にいただければと思います。

●きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、モンゴルのほんの一面です。本書だけでモンゴルのすべてがわかるわけではありません。モンゴルに親しみを感じ、関心をもってもらうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

●使い方は自由です

とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。

●カラーデータ・写真はダウンロードできます

カラーデータ・写真については、(財)愛知県国際交流協会のホームページからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または(財)愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

●本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2～4ページで掲載しており、実際に使っていただくプログラムと、それに関する説明とで構成されています。それぞれのプログラムの「ねらい」も記載していますので、参考にしてください。また、ページの下段に掲載している一ロコラムは、プログラムとは関係なく、ちょっとおもしろい情報や用語の意味などです。必要に応じて活用してください。なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。



参加型のプログラムです。
必要に応じてコピーし、配布してください。



プログラムで模造紙を使います。



プログラムに関する説明です。
ファシリテーター・先生用です。



プログラムでマジックを使います。



プログラムのねらいです。



プログラムで付箋を使います。



ちょっとブレイク！一ロコラムです。



プログラムでA4用紙を使います。
裏紙等を活用してください。



プログラムに使う資料です。
必要に応じてコピーし配布してください。



データ等の出典です。



コピーし、カード等に切り離して
使ってください。



写真の撮影者です。



なぜモンゴル国？

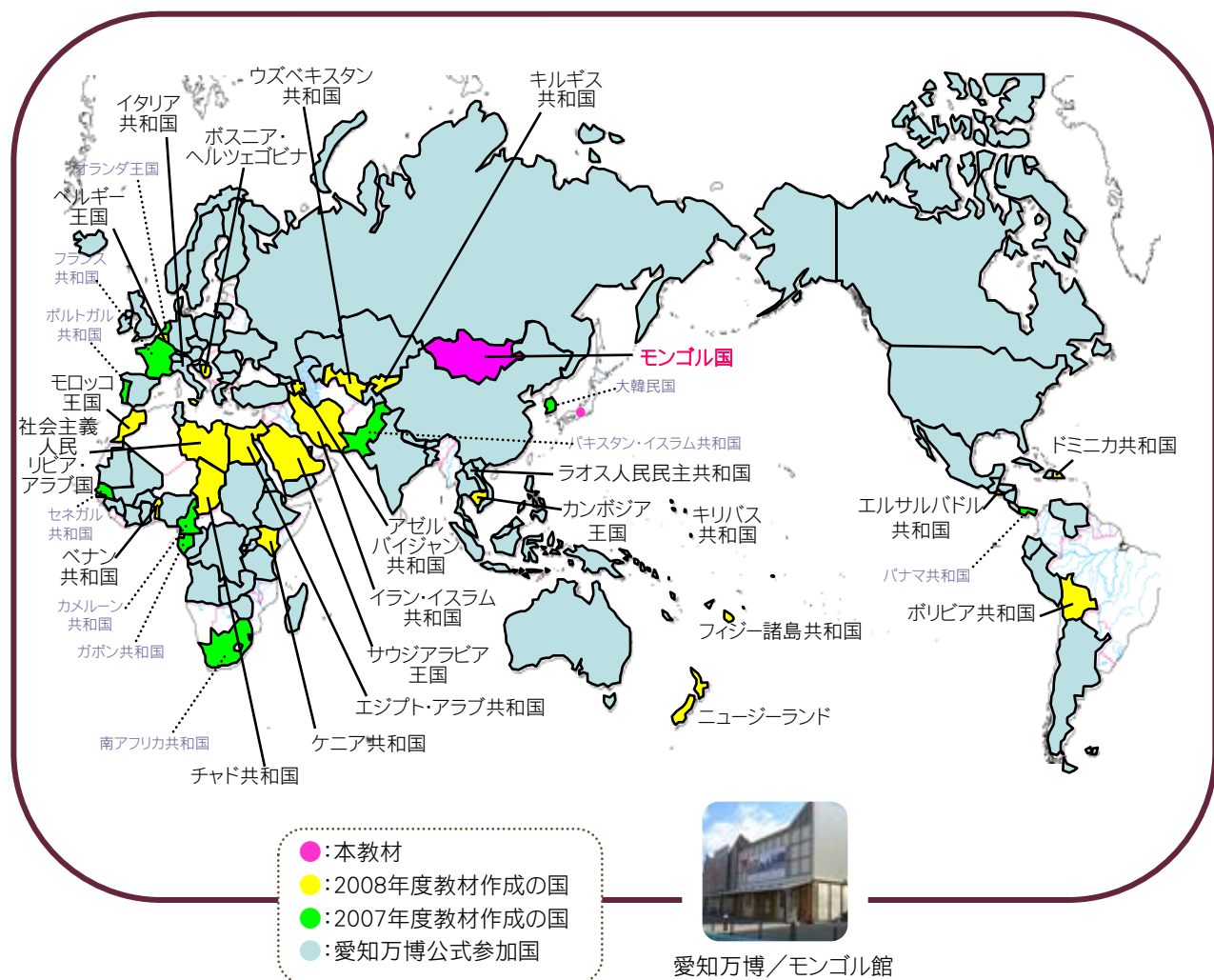
始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国フレンドシップ事業」

2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国（日本を除く）のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国フレンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

- 世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
- 迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
- 万博会場内だけではなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
- 地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
- 地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国フレンドシップ事業」をさらに広げ、つなげていこうと作成したのがこの教材です。

そして、**モンゴル国**のホームシティは、**磐江町**でした。

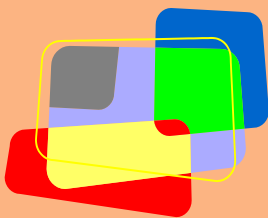




第1章

モンゴルってどんな国？

=大草原に息づく遊牧の暮らし=



モンゴルあれこれクイズ

① 下にあるカードはモンゴルについて書かれたものです。これらはウソ?ホント? 考えてみましょう。



① モンゴルは一年を通してあたたかい国である。



② モンゴルの面積は日本の面積の4分の1である。



③ モンゴルの主食は日本と同じように米である。



④ モンゴルの国土の約80%は草原である。



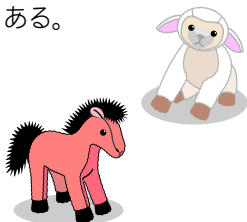
⑤ 世界で初めて恐竜の卵の化石が見つかったのはモンゴルのゴビ砂漠である。



⑥ モンゴル人は姓がない。



⑦ モンゴルの家畜(牛・ヤギ・羊・馬・ラクダ)の数は人口の2倍である。



⑧ モンゴルの遊牧民の子どもは5歳から馬に乗ることが出来る。



⑨ モンゴルの家庭には郵便ポストがない。



モンゴルの町中を歩いていると「KAPAOKE」という看板を見かけます。これはカラオケ屋さんの看板です。モンゴルではカラオケのことを「KAPAOKE」と書きます。モンゴルでもカラオケは大変人気です。



- 1 **×**
ウン

モンゴルの冬は最低気温が -30°C になることがあり、11月から4月までが冬です。5月から6月が春ですが、強い風が吹いたり、突然寒くなるので日本の春のようにおだやかな暖かさはありません。夏は7~8月。平均気温は 34.5°C 、暑い時には 40°C にもなります。夏には昼はTシャツ、夜は厚着になるほど、1日の中で気温が変化します。9~10月が秋で草原で暮らす遊牧民が飼っている羊やヤギなどは冬に備えて太ります。涼しくなって食べ物が腐りにくくなるこの季節から人々は冬に備えて家畜の乳を加工する保存食やお酒などを作り始めます。
- 2 **×**
ウン

モンゴルの国土の面積は日本の4倍ですが、人口は50分の1です。国土の約80%は草原です。モンゴルの年間平均降雨量は300ミリと少なく、ほとんどの雨は夏に降ります。雨が少なく、乾燥している気候に適した草が生えるため、モンゴルには草原が多いのです。
- 3 **×**
ウン

主食は米ではなく肉です。モンゴルの人は8割は羊肉、2割は牛といった感じで羊肉を多く食べます。ブタはいませんが、豚肉は外国人用のスーパーに売っています。ブタ、鶏等の肉の値段は日本と比べて高めです。
主な肉の調理法はゆでてギョーザにしたり、揚げ餃子、パオズにして食べます。味付けは主に塩味。野菜は寒いのであまりありませんがじゃがいもなどの根菜はあります。寒い地域で育ったじゃがいもはほくほくです。最近は輸入野菜や缶詰があるので以前よりも栄養のバランスがよくなりました。
- 4 **○**
ホント

モンゴルといえば、大自然。特に広い草原で見る美しい青空は「エターナル・ブルー（永遠の青）」と呼ばれます。モンゴルは国土の約80%が草原で、昔から草原で羊やヤギなどの家畜を放牧する遊牧民と呼ばれている人が暮らしてきました。その他にも5000mを超える山岳地帯や針葉樹林、ゴビ砂漠など様々な自然があります。
- 5 **○**
ホント

モンゴルは、北アメリカ、中国と並んで恐竜化石が多く発掘されています。1920年代にアメリカの探検隊によって世界ではじめて恐竜の卵の化石が発掘されました。ヴェロキラプトル、プロトケラトプスといった珍しい恐竜化石がたくさん見つかっています。
- 6 **○**
ホント

モンゴル人の名前は姓はなく、父親の名前・自分の名前の順番で表記します。例えば、横綱朝青龍の本名ドルゴルスレン・ダグワドルジは、ドルゴルスレンが父親の名前で、「ドルゴルスレンのダグワドルジ」という意味です。モンゴル人の名前は意味のあることが多く、朝青龍のダグワドルジのダグワは「ラマ教の神様の名前」、ドルジは「強い、誰にも負けない」という意味があります。
- 7 **×**
ウン

遊牧の国であることを象徴するように、馬300万頭、羊1500万頭、ヤギ1100万頭、牛370万頭、ラクダ36万頭と人口の約10倍以上を有しています。
- 8 **×**
ウン

遊牧民の男の子は3歳くらいから馬に乗ります。そしてお父さんやお兄さんから家畜の世話や水運び、まき割り等を教えられます。女の子はお母さんやお姉さんから家の中の仕事や料理・家畜の乳を使って作る乳製品の作り方を習います。
モンゴルの子どもたちは、幼稚園の子どもも靴ひもが上手に結べたり、小さな子どもでも服を自分で全部着ることが出来ます。
赤ちゃんは首もすわっていない生後2ヶ月からトイレトレーニングがはじまり、1歳頃にはオムツなんてしていません。
- 9 **○**
ホント

手紙は郵便局にある私書箱という、小さな扉の付いた個人用の郵便箱に届きます。手紙を出すときは、郵便局の窓口に預けます。
モンゴルでは、移動しながら生活している人が多かったので、街角の郵便ポストや、自宅の郵便受けがありません。私書箱がその代わりです。



体験！モンゴル遊牧ライフ♪

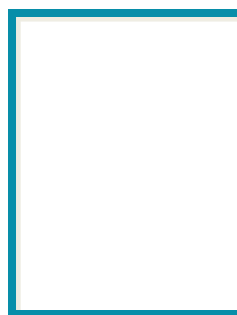
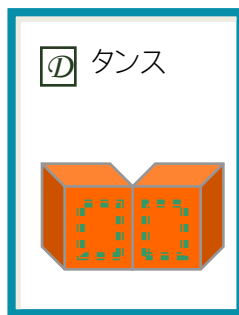
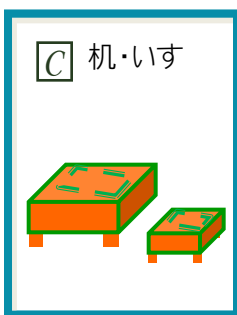


モンゴルには今でも草原で暮らす遊牧民と呼ばれる人たちがいます。
モンゴルの昔ながらの生活を想像してみましょう。

- ① 下の写真はモンゴルのある風景です。
写真を見て気づいたこと、感想を話し合ってみましょう。(男性2人と青い民族衣装の女性は日本人です。)



- ② モンゴルの遊牧民は丸いテント型の家「ゲル」で暮らしています。
いったいどんな家でしょうか？ カードを使って自由に家の中を想像してみましょう。

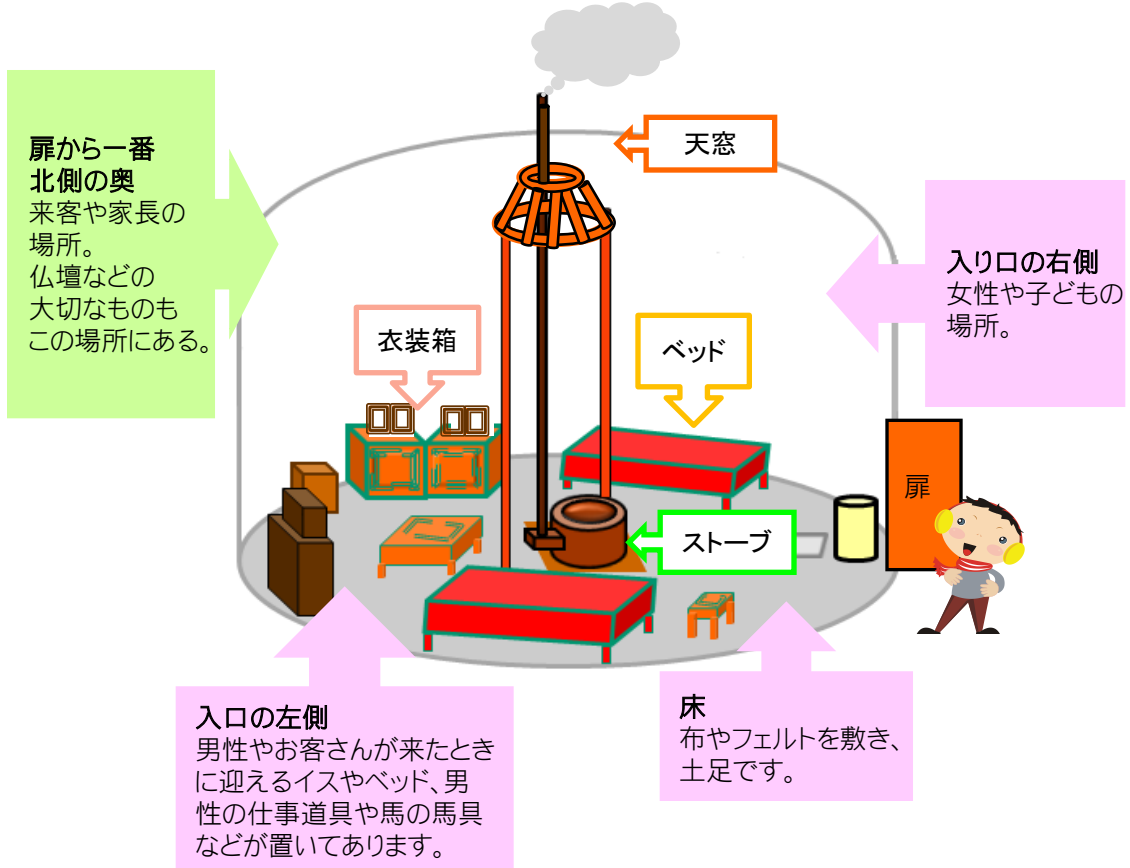


モンゴルは一年を通してとても冷え込みます。そのため、マンションなどの建物は窓と玄関のドアが二重になっています。



こうなってます、ゲルの中

「〇〇の部屋」というような個室ではなく、テントの中の場所によって使う人が分かれています。ゲルの中の家具の配置は各家庭によって多少違いますが、基本的な決まりによって家具が置かれています。お風呂やトイレはありません。モンゴルの大草原ではどこでも用を足せます。また川で体を洗ったりします。共同で使う井戸へ水を汲みに行き、タンクにためて使うこともあります。



ゲルの建て方

- ゲルを組み立てる場所を決め、ドアが南に向くように設置して組み立てを始める。「ハナ」と呼ばれる壁の骨組みを円形につなげる。ひもでドアとハナをつなぐ。ベッドや家具などは最初に中に運び入れておく。
- 2本の柱の上に丸型の天窓を設置し、屋根の部分となる棒と壁の骨組みをつなげる。これで骨組みは完成する。
- 部屋の内側となる部分にきれいな布をかぶせ、その上からフェルトをかぶせる。最近は防水加工をした白い布をその上にかぶせる。
- 最後に3本のひもでしばれば出来上がり。



モンゴルの有名な飲み物の1つに「馬乳酒」というものがあります。馬の乳を発酵させた乳製品で「酒」といっても含まれるアルコールはわずかなので、大人から子どもまで飲みます。日本のカルピスはここからヒントを得て作られたといわれています。本場モンゴルの馬乳酒はすっぱいカルピスのような味で栄養満点です。

現代のモンゴル人の生活

よく、モンゴルには2つの世界があるといわれます。モンゴルの首都ウランバートルでは、高いビルやマンションが並び、道行く人たちの格好も大して日本と変わりません。民族衣装であるデールはお年寄りが着ている場合がありますが、デールはもともと草原での牧畜生活のための服でした。襟は体温や水分が体外に逃げるのを防ぎます。

長いだけは寝るときにも便利で、腰の帯は馬に乗っているときに腰を保護するなど草原での生活に適した衣服でした。最近では、若い人がおしゃれにアレンジされたデールをパーティなどの華やかな場で着ることの方が多くなりました。休日や学校帰りに映画やショッピングを楽しむ姿も見られます。最近、草原が広がる地方でも人々の生活は変わってきました。

収入や仕事を求めて遊牧生活をやめ、首都などに移り住む人が増えています。

草原での移動手段も馬に加えてロシア製のオートバイが一般的になり、トラックを使ってゲルを移動する遊牧民もいます。

遊牧をやめて、地方から首都ウランバートルに移ってきた人たちが郊外に無許可でゲルを建てた「ゲル地区」が広がり、貧困やゲルのストーブから出る煙が原因の大気汚染が問題になっています。



首都ウランバートルの高層マンション



ちょっと考えてみよう♪

- ① モンゴルの遊牧民には、草原での生活に欠かせない5つの家畜「五畜」があります。どんな動物でしょうか？ 下のカードから5つ選んでみましょう。



- ② 遊牧民はこの家畜をどんなことに使っているでしょうか？考えてみましょう。

遊牧民の生活を支える「五畜」

遊牧民たちが飼っている家畜は主に、牛・馬・羊・ヤギ・ラクダです。これらは「五畜」（5種類の家畜）と呼ばれ、大変大切にされています。モンゴルの学校には壁にこの「五畜」の絵が飾ってあるところもあります。



モンゴルの学校は小学校が5年、中学校が4年、高等学校・職業学校が2年の5・4・2年制です。義務教育期間は中学校卒業までです。



ちょっとブレイク



モンゴルじゃんけん、じゃんけんぽん

モンゴルでは、大人も子どもも何かを決める時にはじゃんけんをします。

たとえば、大人は宴会の時に負けた方がお酒を飲むゲームをする時。

子どもは掃除当番を決める時やお菓子を分ける時など。

さあ、やってみましょう!!

◇ルール◇

- ★親指は人差し指より強い
- ★人差し指は中指より強い
- ★中指は薬指より強い
- ★薬指は小指より強い
- ★小指は親指より強い

その他のルール

◆あいこ

上のルール以外は「あいこ」になる

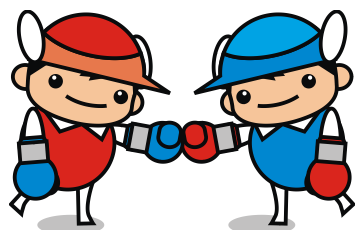
(親指と薬指、人差し指と薬指、中指と小指、同じ組み合わせの場合)

◆掛け声は手を出すごとに「シュッ」「シュッ」とリズムカルにスピーディーに出していく

◆1回勝負または3回連続で勝った方が勝ちです。



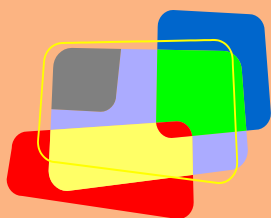
じゃんけんぽん♪





第 2 章

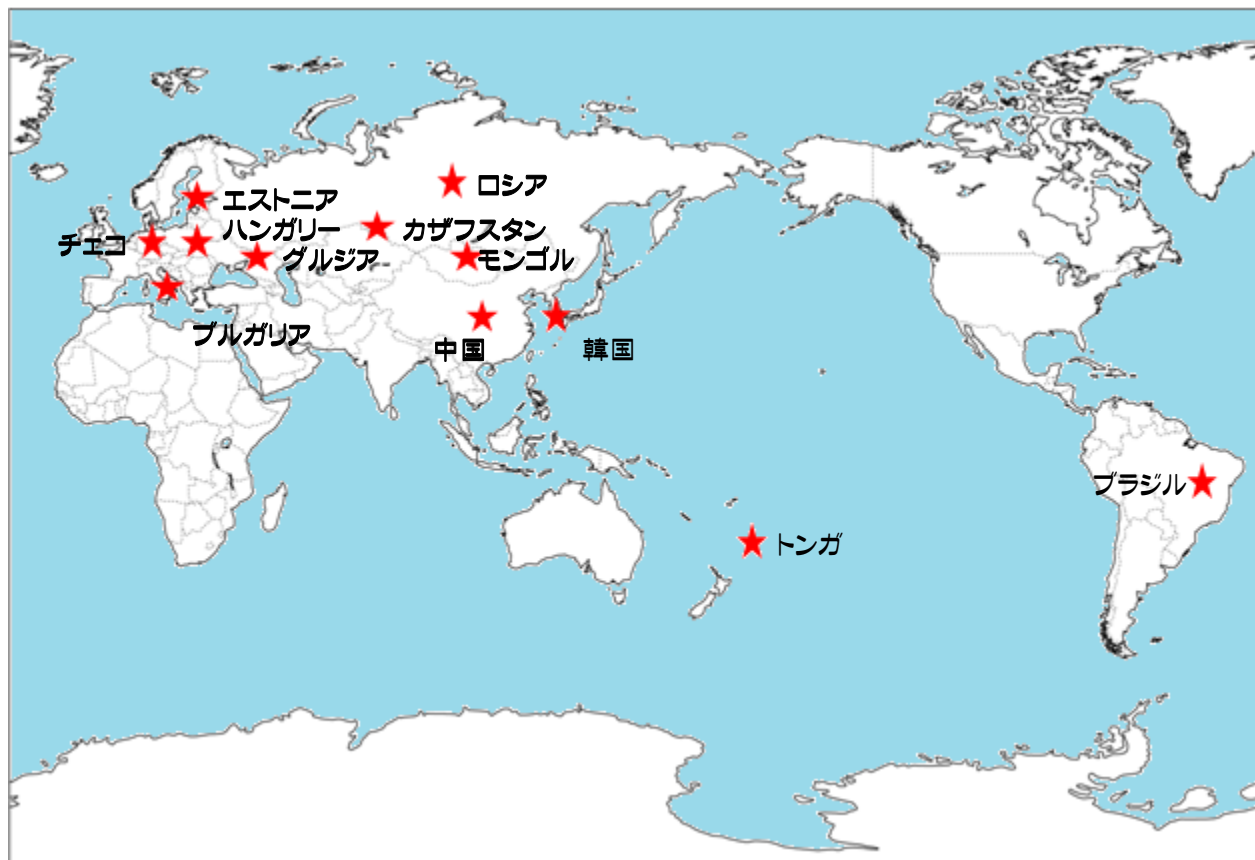
へえ～！モンゴルと日本



モンゴルと日本つながり世界地図



私たちの身の回りには外国とつながりがあるモノ、人がたくさんあります。
普段は当たり前を感じてしまいが、世界地図を作ると気づくことがあります。
日常の中にある外国とのつながりを探してみましょう!



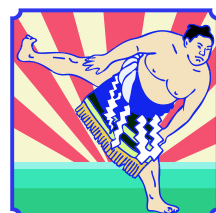
- ① 上の世界地図には、日本のあるスポーツに関係する国に★マークがついています。
いったい、何のスポーツでしょう?

ヒント1 日本に昔からあるスポーツです。

ヒント2 このスポーツをする人は体が大きいです。

- ② 上の★マークは日本で活躍する外国人力士の出身国です。
どこの国出身の力士が一番多いでしょう?

- ③ 相撲の他にも、日本には色んなところで外国とつながりがあるモノや人があります。
他にどんな例があるでしょうか?
あなたも日本の中にある「〇〇の世界地図」を作ってみましょう!!



モンゴルの首都ウランバートルには、モンゴル日本文化センターがあり、日本語の体験教室や文化紹介などが行われています。図書館には日本の新聞、雑誌やマンガがあり、多い日には700人ほど来館します。



外国人力士と日本の相撲

① の答えは「日本の相撲界で活躍している外国人力士」の世界地図でした!

② の答えはモンゴルです。右の表は、外国人力士の出身国を多い順に並べたものです。2008年現在、モンゴル出身の力士が最も多く活躍しています。その他にも、ブラジル・中国・韓国・ロシア・トンガ・グルジア・チェコ・ブルガリア・カザフスタン・エストニア・ハンガリーから来ている力士がいます。相撲の世界はとても伝統的で、様々な専門用語はもちろん、厳しい礼儀作法や独特の生活環境があります。しかし、外国人力士は日本語を覚えるのがとても早く、しかもとても正しい日本語を話せる人が多いです。またシコ名に「黒海」や「欧州」など、出身国に関する言葉がつく力士もいます。

歴代外国人相撲力士の出身の多い国・地域

順位	国・地域	人数
1	モンゴル	43
2	アメリカ	30
3	ブラジル	15
4	韓国、台湾	12
6	中国	11
7	トンガ	8
8	ロシア	5
9	グルジア、フィリピン	4
11	アルゼンチン、英国、エストニア、西サモア	2
15	カザフスタン、カナダ、スリランカ、チェコ、パラグアイ、ハンガリー、ブルガリア	1



日本相撲協会

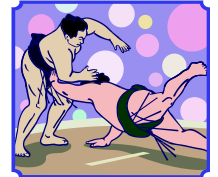
ところであなたはどれくらい日本の相撲のことを知っていますか?

日本の国技・大相撲の総合情報ホームページ「大相撲情報局」の「相撲界へのはじめての一步」では、外国人力士だけでなく日本のお相撲さん達がなぜお相撲さんになったか、教えてください。

ここでは一部のタイトルだけご紹介を・・・

- モンゴル相撲の経験がなかったモンゴル力士
- レスリングから相撲の世界へ
- 入門前は韓国相撲の学生王者
- アメフトの有望選手から力士に

相撲1つとってもこれだけの国とかかわっている私たちの生活。他にも地域に住んでいる外国の人や服や食べ物、いろいろなところで日本と世界はつながっています。



モンゴルの相撲「ブフ」と夏の祭典「ナードム」

日本でも活躍しているモンゴル人力士。実はモンゴルにも「モンゴル相撲」というスポーツがあり、大変人気です。モンゴル相撲には日本の相撲のような「土俵」はなく、相手の膝、肘、頭、肩、背中などを地面につけたら勝ちです(日本の相撲と違い、掌をついても負けにはならない)。技の数はなんと400以上もあります。ナードムでの出場は年齢制限がないので若い青年からおじいさん力士が参加します。力士の衣装はゾドクと呼ばれる上衣、ショードクと呼ばれる短いパンツ、モンゴルブーツ、ジャンジンマルガイといわれる帽子です。試合に勝った数だけ「アルスラン(巨人)」、「ガリット(伝説上の鳥の名前)」といった称号が与えられます。強い力士は芸能人や政治家以上に有名になり人気者です。ちなみに朝青龍のお父さんやお兄さんもモンゴル相撲のチャンピオンです。モンゴル相撲は野外の競技場や夏のスポーツのお祭りと言われる「ナードム」で行われます。このナードムは毎年7月11日から13日まで行われるモンゴルの一大イベントです。昔は戦争の勝利や狩りの成功を祝うお祭りでしたが、1921年に中華民国(当時)から独立してからは毎年行われるようになりました。

毎年モンゴル各地でモンゴル相撲・弓術・競馬が行われ、中でも首都で行われる全国大会には多くの国民はもちろん、大統領や首相が観戦に訪れます。

弓術には男子と女子の部がそれぞれあり、的を狙って得点を競います。競馬は5歳から12歳までの子どもが馬に乗り、馬の種類によってそれぞれの距離を走ります。一等賞になった子どもにも、惜しくも負けてしまった子どもにも人々は暖かい拍手と歓声を送ります。草原で繰り広げられる迫力あるナードム、一度見に行ってみたいですね。



7月16日は「外国人力士の日」です。1972(昭和47)年、ハワイ・マウイ出身の高見山大五郎(米国名ジェシー・クハウルフ)が外国人力士として初めて優勝しました。この出来事は高見山の故郷マウイ島にも伝わり、表彰式には当時のアメリカ合衆国大統領リチャード・ニクソンから祝辞が届きました。

ぼくんちあたしちカレンダーを作ろう！

また、自分の地域や家庭ではどんな行事が大切に考えられ、行われてきたか振り返りましょう。

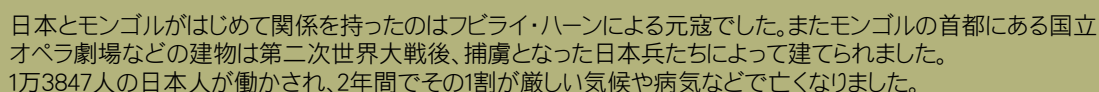
7 下の写真はモンゴルのお正月の様子です。写真を見てきづいたことをグループで話し合しましょう。



2 グループに分かれて下のカレンダーの上半分に「日本の年中行事」を、下半分に「季節ごとに我が家ですること」や「私の地域の固有行事」を書き出してみましょう。

[illegible]

③ 各グループの「ぼくんちあかしんちカレンダー」を発表しましょう。
自分の家や地域、日本ではどんな行事があるか、何を大事にした行事があるか考えてみましょう。





モンゴルの大みそか

モンゴルの大みそかは「ビトゥー」といい、「閉じられた」「ぴったりしめられた」という意味です。この夜は家族そろって一年が無事に終わったことに感謝し、来年もいい年になるようお祈りをしながらボーズ（小麦粉で作った皮でひき肉を包んで蒸した餃子のようなもの。モンゴルの家庭料理）を食べ、年を越します。ボーズは、皮で具を包んでいる見た目が、「ビトゥー」の「閉じられた、ぴったり閉められた」と同じなので、大みそか恒例の食べ物なのです。

夜には、モンゴルの伝統的なモンゴル相撲の試合が行われる様子がテレビなどで放送されます。日本でも年越しそばを食べたり、おせち料理の料理一品一品が縁起のいいものにちなんだものを用意したりします。また家族そろってテレビ番組を楽しんだりすることも似ていますね。

モンゴルのお正月の過ごし方

モンゴルのお正月は毎年1月下旬から2月にかけての3日間。日本の元旦にあたるモンゴルのお正月第一日目は、日が昇ると家族そろって同時に起きて晴れ着に着替えます。

そして年齢順に家の中で一番偉い人にあたるお父さんやおじいさんにあいさつをします。

モンゴルの新年のあいさつは、年下の人から年上の人へおじいさんを持って「アマルサイノー（良い休日を過ごしていますか?）」と言い、においをかぎます（写真右下）。その後、みなでお正月料理を食べ、新年を祝います。

そのあと、お父さんや若者は馬に乗って親戚や近所の人など多くの人に新年のあいさつをしに出かけます。馬に乗ってあいさつに行くなんてモンゴルらしいですね。

最近では、家に新年のあいさつをしに来たお客さんに対して、家の人はお酒やボーズでおもてなしをし、お客さんが帰る時にはヘヴィン・ボープとお金やキャンディなどを贈ります。日本のお年玉に似ていますが、子どもだけでなく大人ももらえるそうです。

ちなみにモンゴルでは1月1日にはツリーを飾り、ケーキを食べます。

モンゴルの宗教はチベット仏教なので、クリスマスはありません。

そのため、新年の祝いでもまるでクリスマスのようなお祝いを行います。

この時期には「冬のおじいさん（サンタクロースのような人）」 寺田美穂
がプレゼントを配ってくれるそうです。



座っている年長の方へあいさつをしている様子

モンゴルのお正月料理

お正月準備の中でモンゴルの人たちが一番力をいれるのはお正月料理です。日本でも、おせち料理を手作りする家庭があります。日本でもモンゴルでもお正月はみんなが楽しみにしている行事の1つなのですね。

左のモンゴルのお正月の写真で、目をひくのは写真右側に写っている茶色のピラミッドのようなものでしょう。これは「ヘヴィン・ボープ」と呼ばれるお菓子を積み重ねた「イデー」というもの。

「ヘヴィン・ボープ」は小麦粉と砂糖とバターを練って楕円形にのばし、「ヘブ」と呼ばれる型で模様を付けて油で揚げて作ります。こうして作った「ヘヴィン・ボープ」を奇数の数になるように積み重ねていきます。

花びら占いのように下の段から「幸福」・「不幸」・「幸福」…と数えていくと、一番上が「幸福」になるように積んであり、飴や角砂糖、お菓子などを隙間なく詰めて飾ります。これは隙間から良いことを逃さないためです。

モンゴルのお正月を象徴するお菓子のお正月飾りです。日本で言うなら鏡餅のようなもの?!

右の写真の机の上に乗っているのは、お正月料理のメインで「オーツ」と呼ばれる料理です。羊の背中から尻尾にかけての部分をお骨つきのまま煮て、盛り付けたものです。これらの料理はお正月や結婚式などのおめでたい時に食べられます。

そして、各家庭ではたくさんのボーズを作ります。家族の分だけではなく、お正月にやってくるお客さんの分も作るので千個以上作る家庭もたくさんあるそうです。寒いモンゴルでは作り置きしたボーズをペランダで自然冷凍できます。お客が来たら蒸し器で蒸してごちそうします。

その他にもモンゴルの伝統的なお酒「馬乳酒」などが用意されます。



寺田美穂

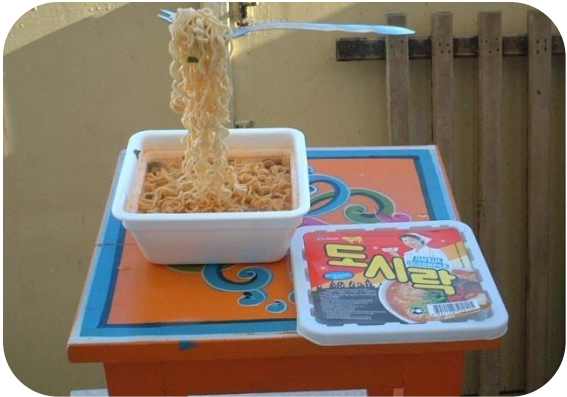


悲しい歴史ですが、モンゴルの人々は当時の日本人の働きに感心しています。その後両国の交流は深まり、今やモンゴルの最大の援助国は日本です。またモンゴル政府も貧しい人々を抱えながらも、2004年の新潟中越地震の際には520枚の毛布と600万円の義援金を日本に送るなど両国の友好は深まっています。



フォトギャラリー 「これなーんだ？」編

とっても寒いモンゴル。こんな場面を発見しました！



寺田美穂

実はこーんな場面でした！

（左上）「これなーんだ？」

市場で売られているアイスとヨーグルト。右下のダンボールのアイスはロシア製の一番みんながよく食べるアイスで100トゥグルク（約10.5円）です。冬は30度を下回る位の寒さなので、冷凍庫も要りません。

「そんなに寒くてもモンゴル人はアイスを食べるんですか?！」

はい、寒くてもみんな平気で外で歩きながらアイスを食べたりします。

（右上）「バラがバラバラ?!」

この日の気温はマイナス20度くらいで、モンゴルでは比較的暖かい日。

しかし、バラも凍ってしまうくらい寒い!!

ちなみにモンゴルは寒くて花が育たないため、あまり花を買ったり、生けたり、育てたりする習慣はありません。花屋がありません、花は高価です。

（左下）「フォークが空中に?!」

マイナス20度で、15分~20分でカチカチになります。

ちなみに、凍っている物はモンゴルでよく食べられている韓国製のカップラーメン（도시락）。

（右下）「立ったまま凍ったタオルとシャツ」

マイナス20度で、一晩干すとシャツもタオルも凍って立ちます。

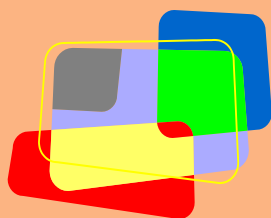


手品ではありません!



第3章

一緒に考えよう！こんな課題



ふわふわカシミアと大草原



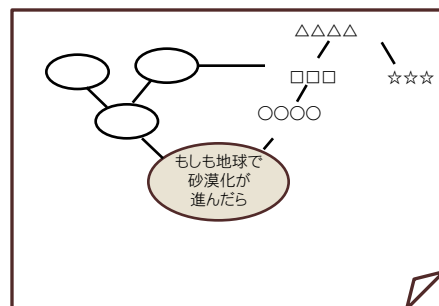
環境問題、格差。私たちとどんなつながりがあるでしょう？

「カシミアセーター」を通して、世界と日本のいろいろなつながりについて考えましょう。

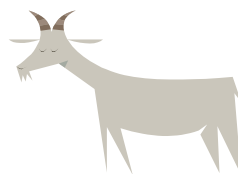
- ① 砂漠化とカシミアセーターはどんな関係があるのでしょうか？
グループに分かれて話し合ってみましょう。



- ② もしも地球で砂漠化が進んだらわたしたちの生活はどうになってしまうのか、グループで考えてみましょう。
模造紙を1枚ずつ用意して、真ん中に「もし地球で砂漠化が進んだら」と書き込んでください。
そこから、どうになってしまうか思いつくことを書き、さらにそれがどんな風につながっていくのか派生させて
考えてみましょう。もちろん、悪いことはばかりではないかもしれません。
他の人が書いた意見に付け加えたり、つなげたりしながら、自由な発想でどんどん広げていってください。



- ③ この問題を解決するためにはどんなことが必要でしょう？
私たちにどんなことができるか考えてみましょう。



モンゴル人は植物をととても大切にします。外国人が庭の草ぬきをしていると「だめだめ、緑は大切にしなきゃ」雑草であっても、モンゴル人にとっては厳しい自然の中で育つ、大切な草木なのです。



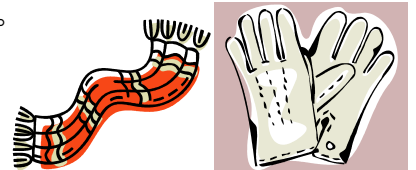
カシミアと草原の関係

私達に身近なところでモンゴルと大きくかかわっているものがあります。その1つが「カシミア」。日本でも、冬になると色とりどりのカシミアセーターが売られています。なめらかな手触りで、温かいカシミアはマフラー、ショール、帽子、手袋などいろいろな製品となって日本の私たちの冬の生活を楽しませてくれます。

しかし、今そのカシミアが環境問題につながっていることを知っていますか？そして、それは砂漠化が起きている地域だけの問題ではありません。私たちは自分たちが知らないうちに世界のこうした問題にかかわっていることがあります。モンゴルの特産品の1つである「カシミア」。このカシミアは寒い地域で育つヤギからとれ、イタリアなどの高級ブランドの衣服でも使われています。こうしたヤギはモンゴルや中国などの地域で放牧によって育てられています。モンゴルでは、2000年と2002年の夏には干ばつ、1999～2000年、2000～2001年、2002～2003年の冬にはゾド（大雪による雪害）が起き、遊牧民は財産である家畜を失いました。こうした家畜の毛皮や皮を売って育てている遊牧民にとって、高い値段で買い取ってもらえるカシミアヤギの毛は貴重な収入です。遊牧民にとって放牧は生きていくための手段であり、放牧をやめることは生きていけなくなることを意味しているのです。

モンゴルの草原に暮らす遊牧民は昔からいろいろな5種類の家畜を飼って暮らしています。それは、それぞれの家畜の食べる草が違うことを利用した遊牧民の知恵でした。その他にも、たとえば家畜を狙う狼であっても子どもの狼は殺さない、などの決まりを持っていました。モンゴルの自然の中で生きる人たちは、自分たちが不自由な思いをすることがあっても、遊牧民は自然とともに生きる生き方をしてきたのです。

モンゴル政府が2002年に行った調査では、草原の劣化の原因はヤギの放牧が半分近くを占めています。これらの問題は、同じようにカシミアの産地である中国などでも起きています。日本でも春になるとやってくる「黄砂」も砂漠化が原因だと言われています。黄砂がひどいと洗濯物などが汚れたり、ひどい場合には飛行機が飛ばないなどの影響があります。



砂漠化とは

砂漠は、もともと雨が少なく植物があまり生えていない、乾燥した地域のことです。それに対して「砂漠化」とは、もともと緑があった場所や人が暮らしていた場所が荒れてしまうことを言います。砂漠化の原因は大きく分けて、①自然環境によるもの、②私たち人間が原因になっているものがあります。①の理由は長期間雨が降らなかったり、地球温暖化による気温の上昇などがあります。たとえばアフリカでは1968年～1973年にサハラ周辺で干ばつが起き、多くの人々が被害にあいました。

しかし、近年では人間の活動による砂漠化が増えています。その理由は土地の植物を限界まで家畜に食べさせてしまう過放牧や土地の栄養分が無くなるまで農作物を作る過耕作、森林伐採などがあります。こうして植物が少なくなると風で土が飛ばされる「風食」や水で土が流される「水食」が起き、土地は再び元に戻るまで大変な苦勞と手間がかかってしまうのです。

その他にも農業用の水を地下からくみ上げることが原因で地面が塩だけになってしまう「塩害」の問題もあります。さらに土地の急激な人口増加や貧困の問題があります。

現在、地球上の陸地の約4分の1が砂漠化の影響を受けており、世界の人口の約6分の1の人々が砂漠化による影響を受けていると言われています。

こうしたことから、1996年12月に「砂漠化防止条約」が発行され、日本を含む191カ国が参加しています。この条約は、砂漠化が進む地域の問題を解決するためのもので、砂漠化を防止する方法や砂漠化対策にかかる資金を参加国が援助しています。日本では政府開発援助（ODA）による調査・技術面での協力・資金の貸付などを行っています。また、NGOが行っている現地での植樹などに対して補助金を出しています。

このように世界の国々が手を取り合っていますが、それでも砂漠化は進んでいます。私たちもう一度自分たちの生活を見直してみましょう。



しあわせ家族について考えよう

① 「ストリートチルドレン」を知っていますか?子どもの権利について考えてみましょう。
まずは次のお話を読んでみましょう。

(モンゴルの路上で暮らす8歳の女の子のお話。)

自分の誕生日は知りません。小学校には入学しましたが、一年生で学校には行かなくなってしまいました。読み書きや計算は全くできません。

家族はお母さん、義理のお父さん、お姉さん、弟、私です。本当のお父さんは病気で死んでしまいました。

新しく出来たお父さんが暴力を振るうので家を出ました。季節によって寒さをしのげる場所や暑くないところに住んでいます。今までマンションの入り口近くやあたたかいマンホールの中で眠ったりしました。学校に通っていた時の友達の家泊めてもらったこともあります。

こういう生活をはじめて1年くらい経ちました。

いつも服と毎日のごはんには困っています。冬に靴がぼろぼろだと足が寒くて困ります。

路上で友達になった女の子といつも一緒に寝るところを探し、毎日暮らしています。

毎朝、物乞いでごはんを食べた後は、公園で縄跳びやかくれんぼをしたり、街をうろろしたりします。

ご飯は物乞いをしたり、レストランの残り物を食べていました。一日3食食べれることはめったにありません。時々警察の保護施設に行って歯を磨いたりお風呂に入ったり、服をもらいます。

大きな病気になったことはあまりありませんが、風邪をよくひきます。

痛くはないけれど虫歯があります。

身寄りがない子どもがいく施設には行きたくありません。誰かの養子にもなりたくありません。

お母さんや家族のことは大好きで、家で一緒に暮らしたいのですが、義理のお父さんが怖いので家には戻れません。いつかはもう一度家族で住みたいです。学校にも行きたいです。

① このような子どもはモンゴルに約何千人いるでしょうか?

☐ A 3,400～3,700人

☐ B 3,700～4,000人

☐ C 4,000～4,300人

② では、世界にはこのような子どもはどれくらいいるでしょうか?

③ 子どもにとって大切なこと・必要なことは何でしょう?
グループで模造紙にまとめてみましょう。



モンゴルでは赤ちゃんを布や布団でぐるぐるに巻くのがモンゴルスタイルです。室内でも屋外でもぐるぐる巻きの赤ちゃんを見かけます。棒状態だと動かないので安心・安全だという理由からだそうです。



1 の答え・・・ **B**

親元を離れた子どもの数は、正確にはわかりませんが、モンゴルには約3,700人から4,000人の路上で生活する子どもがいると言われています。

2 の答え・・・数千万～1億人

こうした子どもたちは、アジアやアフリカ、南アメリカに数千万人から1億人いると言われています。

3 の答え・・・P.23～24を読んで考えてみましょう。

「ストリートチルドレン」を知っていますか？

「ストリートチルドレン」という言葉を知っていますか？ ストリートは「通り」、チルドレンは「子ども」という意味です。こうした子どもたちは、路上で寝泊まりしたり、生きていくために靴磨きや花を売ったりする仕事をしてわずかなお金を稼ぎます。仕事が見つからない場合はゴミの中からお金になりそうなものを見つけてお金に換えたり、物乞いをしたりすることもあります。彼らはなぜ、家族と一緒に、あたたかい家に住むことができなくなったのでしょうか。その理由はさまざまです。それまでは家族で住んでいたけれど、お父さんまたはお母さんが病気や事故等で亡くなったり、貧しさのために家族がバラバラになってしまったりする場合。また、家族から虐待を受けるなど、家でつらいことがあって、家から逃げ、路上で生活を始める子どももいます。家族は居ても、家族全員が食べていけるお金がないため、貧しくて面倒が見れない子どもだけで路上生活することもあります。こうした子どもの場合は時々家に帰ることもありますが、路上で生活することがほとんどです。このように、ストリートチルドレンが生まれる背景には、貧しさが大きな原因になっています。



モンゴルの「ストリートチルドレン」たち

1990年はじめ、ソビエト連邦（現在のロシア）が崩壊したことから、経済的援助を受けていたモンゴルも大きな影響を受けました。ソ連などからの輸入が止まり、生活に必要な石油や日用品が不足し、国営の工場や企業でも倒産や大規模なリストラが起きたため、多くの人が職を失いました。

物価が上がり、財政難から政府も失業者や病気の弱い立場の人を守る社会保障制度も機能しなくなり、人々の間に大きな不安が生まれました。

1995年ごろからモンゴルの経済も成長し、中国や韓国からも輸入が行われるようになりましたが、人口の40%は貧困層だといわれています。失業と貧しさからアルコール依存症になる人や家庭内暴力が増え、子どもを手放す親や家を出てホームレスになる子どもがたくさん社会問題となりました。冬場はマイナス30度にもなるモンゴルでは路上で生活することが難しいため、温水パイプが通るマンホールの中で生活するようになった子どもたちを「マンホールチルドレン」と呼ぶようになりました。

最近では政府や外国からの支援によって、路上で生活する子どもは保護されるようになり、以前ほど数は減りました。しかし、中には生活が苦しくなると子どもを施設に預けてしまう親もいます。

またマンホールチルドレンだった子どもたちが大きくなり大人になっても路上の生活から抜け出せないという問題や、貧しい家族がマンホールや路上で暮らすという問題も起きています。

気候が厳しいモンゴルでは、一家が協力し合わなければ色んな困難の乗り越えることができませんでした。

モンゴルの家族は本来、とても強い絆で結ばれています。そんなモンゴルでさえ、ストリートチルドレンが生まれるということは、それだけ生活が苦しいからなのです。



P.22のつづき

右の表はモンゴルのストリートチルドレンの家出の理由です。家が貧しいという理由よりも、貧しさによって親との関係がうまくいっていないことや家庭内の暴力など家族関係がうまくいっていないという理由から家を出る子どもの方が多いです。子どもたちは貧しくても家族で力を合わせてがんばりたい、と願っています。



貧困	17%
孤児	6%
親がホームレス	20%
親の離婚	7%
実の親、兄弟の暴力	6%
義理の親の暴力	8%
家庭環境	6%
親がアルコール依存症	2%
自分の意思で	11%
悪友に誘われて	5%
捨てられた	4%
親が刑務所に入っている	1%
その他	7%



出典：モンゴル厚生省、ユニセフ、
「ストリートチルドレン実態調査」1997年

路上で暮らすということ

ストリートチルドレンの中にはたくましくお金を稼ぐ子ども、自分より年下の子供の面倒を見る子どももいます。しかし、危険がせまったときにいつでも大人から助けてもらえるわけではありません。

こうした場所は清潔ではないため、ネズミや虫などから病気を拾うこともあります。もちろん病院に行くようなお金もありません。暑い国、寒い国では十分に暑さや寒さから身を守ることができないこともあります。

そして、一番多いのは様々な犯罪に巻き込まれることがあるということです。

家のようにカギがない路上やマンホールでは、せっかく稼いだお金や大切な持ち物を盗まれることがあります。喧嘩に巻き込まれてケガをすることもあります。

そして何よりも、子どもは人身売買として、お金で買われ、働かされたり虐待されたりする危険性があります。

小さな子どもほど、簡単にだまされたり、連れ去られることがあります。

いつも目を向けてくれる家族がいない子どもたちは、いなくなったことを気にとめてくれる人がいないため、こういった犯罪に巻き込まれることがあります。

悪い大人によってことばたくみにだまされ、自分がしたくないような危険な仕事、汚い仕事をさせられる、という悲しい現実が世界の貧しい地域ほど多くあります。幸せではない環境にすることで心が傷つくこともあります。

こうした子どもたちは、つらい仕事にどれだけ耐えて働いても、雇い主から給料をもらえなかったり、もらえたとしても安いお金しか手元にもらえません。暴力を受けることもあります。ひどい生活環境から、心身ともに健康でいられなくなり死んでしまう子どももいます。

また、生活に困ったときに、空き巣や万引きなどの犯罪に手を染めてしまうこともあります。

教育を受けていない、何の技術も持っていない子どもにとっての仕事は時に犯罪組織に利用されて、自ら犯罪をおかすことでもあります。

ストリート、とは単に路上という意味だけではなく、「守ってくれる家族がいない危険な場所」でもあるのです。



1924年に世界で2番目の社会主義国となったモンゴルでは女性の社会進出や単身留学がいち早く行われていました。今でも共働きの家庭が多いため、祖父母に面倒を見てもらったり、数年間預けられることも普通にあります。子どもたちはおじいちゃんおばあちゃんが大好きです。

子どもの権利条約を読んでみよう

1989年、子どもの権利に関する国際法が出来ました。子どもの権利条約には、子どもの権利に関する4つの柱があり、子どもがあたりかたかい家で暮らすことや自分の意見を表現することなど、様々な分野で書かれています。すべての子どもが一人の人間として人間らしく生きていくことは誰にも否定できない権利です。世界のどこで生まれてもこの条約は守られなければいけません。「国連子どもの権利条約」はもっとも多くの国が署名している条約です。この条約は次の4つの柱から成っています。

生きる権利・・・

子どもの生きる権利と、生きていくために必要なこと。健康に生きるために必要な生活環境や食事、医療サービスを受けることが含まれています。



守られる権利・・・

あらゆる虐待などから子どもが守られること。戦争や紛争、児童労働などから守られること、また被害を受けた子どもの保護も含まれます。



育つ権利・・・

自分の能力や才能を伸ばすための権利。教育や遊び、情報の入手や宗教の自由が含まれます。



参加する権利・・・

子どもが地域や国で年齢に応じて役割を果たすことが認められる権利。自分の意見を自由に表現することや、団体に参加することが含まれます。



たとえば、こんな権利があります。

●生きる権利

6条 生きる権利・育つ権利

すべての子どもは、生きる権利をもっています。国はその権利を守るために、できるかぎりのことをしなければなりません。

●守られる権利

36条 あらゆる搾取からの保護

国は、どんななかたちでも、子どもの幸せをうばって利益をえるようなことから子どもを守らなければなりません。

●育つ権利

28条 教育を受ける権利

子どもには教育を受ける権利があります。国はすべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校のきまりは、人はだれでも人間として大切にされるという考え方からはずれるものであってはなりません。

●参加する権利

13条 表現の自由

子どもは、自由な方法でいろいろな情報や考えを伝える権利、知る権利をもっています。ただし、ほかの人に迷惑をかけてはなりません



モンゴルでは1994年から毎年6月1日が「母と子の日」と定められ、祝日になりました。この日を含め、モンゴルでは祝日の昼間から車のライトを点灯させて運転する習慣があります。



フォトギャラリー 「もこもこモンゴル」編

モンゴルの幼稚園の子どもたち。
マイナス30度の中、通園するので、みんなモコモコです。



笑顔がいいね!



子ども用ドル(民族衣装)。
お父さんと一緒にパチリ!

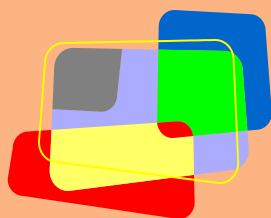


帽子がかっこいいね!



第4章

そして未来へ



『多文化共生社会』ってどんな社会？



地球のみんなと一緒に生きていくということは
ということなのでしょう？



- ① みなさんは、『多文化共生社会』ということばを聞いたことがありますか？
「多くの文化が共に生きる社会」というのは、いったいどんな社会でしょう？
「多文化共生社会に必要なこと」を黄色い付箋紙に、「多文化共生社会にあってはいけないこと」を青い付箋紙に書き出してみましょう。付箋1枚に1項目ずつ、できるだけたくさん書いてみてください。
- ② 4～6人のグループに分かれましょう。
各グループで模造紙を用意し、半分に区切ります。左側には「必要なこと」、右側には「あってはいけないこと」を貼っていきます。みんなの意見を共有するために、1人ずつ読み上げながら貼ってください。また、他のメンバーが似たようなものを貼った時はその近くに貼ってください。
- ③ 模造紙にまとめたことをもとにグループで「多文化共生社会とは……な社会」という文章をつくってみましょう。
- ④ では、そんな社会を実現するために、私たちにできることは何でしょう？
一人ひとり、A4の紙に「私たちにできること7か条」を書いてみましょう。
- ⑤ 一人ひとりがつくった7か条をもとに、グループで「多文化共生社会を実現するための7か条」にまとめ、右のように模造紙に書いてみましょう。
- ⑥ 全員で発表し、感想を話し合しましょう。

多文化共生社会とは

な社会

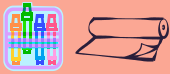
そんな社会を実現する
ための7か条★

- ★1
- ★2
- ★3
- ★4
- ★5
- ★6
- ★7



モンゴルでは一般に男性より女性のほうが高学歴です。男の子は力仕事ができるため労働力として家の手伝いを優先に求められています。

号外！号外！20年後の新聞です



20年後の地域と地球はどうなっているでしょう？
どうなっているといいでしょう？

- ① みなさんは新聞記者です。20年後の明日発行する新聞記事を書いているところです。
20年後はどんなニュースが新聞に載っているでしょうか？ だれにでもわかりやすいことばでまとめてみましょう。

- ② まずは、グループで新聞名を決めましょう。
模造紙を横にして半分に区切り、
新聞名と日付を書き込みましょう。

20××年○月△日.....	20××年○月△日.....

○
☆
新聞

- ③ 20年後地域と地球がこんな風になっている
といいなと思うことを想像し、ニュース記事に
まとめてみましょう。模造紙の右半分に地域のニュースを、左半分に地球のニュース（あるいは、モンゴルの
ニュース）を書きます。

- ④ 全員で発表し、感想を話し合ってみましょう。

- ⑤ さて、今の生活を続けていったとき、ニュースにまとめたような地域や地球が実現できると思いますか？
実現するために、自分がやろうと思うことを1つ決めて、グループで共有しましょう。



モンゴルには古くから使われていたモンゴル文字という伝統的な文字があります。上から下、左から右に書き、横に書くことはできません。1940年代から1992年まではロシア語のキリル文字が使われていましたが、1992年の民主化によって再びモンゴル文字を使用するようになりました。

多文化共生社会

1990年の入管法改正により、主に南米からの日系人が多く日本に住むようになりました。近所や学校、職場に外国籍の方がいるのがあたりまえの状況の中でことばの問題、文化・生活習慣の違いからくるトラブル、子どもたちの教育問題、近年の経済悪化による雇用の問題などさまざまな課題が生じています。そうした課題に取り組む中で目指しているのが、「多文化共生社会」の実現です。この「多文化共生社会」とは、「国籍にも、性別にも、年齢にも、障害の有無にも関わらず、すべての人が暮らしやすい社会」と位置づけられています。愛知県が2008年にまとめた「多文化共生推進プラン」では、愛知がめざす多文化共生社会を『国籍や民族などのちがいににかかわらず、すべての県民が互いの文化的背景や考え方などを理解し、ともに安心して暮らせ活躍できる地域社会』としています。そうした社会を実現するために、2006年には、総務省から各自治体に向けて「地域における多文化共生推進プラン」が出されました。その中では、特に外国籍住民も暮らしやすい社会を創るために、次のようなことに取り組んでいくと書かれています。

● コミュニケーション支援

多言語による情報提供、相談窓口の設置、日本語学習の支援など

● 生活支援

入居差別の解消、教育にかかる情報提供、進路指導、就業支援、就業環境の改善、外国語対応可能な病院・薬局等の情報提供、医療通訳者の派遣、健康診断・健康相談の実施、高齢者や障害者への対応、災害時の通訳ボランティアの育成、災害時の情報の多言語化など

● 多文化共生の地域づくり

地域住民への啓発、多文化共生の拠点づくり、外国籍住民の地域社会への参画推進など

地球的課題(グローバルイシュー)

一国では解決することが難しい、人類共通の課題を「地球的課題」「地球規模の課題」「グローバルイシュー」といいます。大きく分けると4つ。これらの課題は、包括的かつ相互的に関連しています。

● 地球環境

先進国の経済成長などに伴うオゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、砂漠化、海洋汚染、ごみ問題、野生生物の絶滅など地球規模で発生している課題です。

● 貧困と開発

南北問題に伴う貧困。それによる食糧不足、飢餓、衛生面での問題、教育の問題、児童労働など子どもや女性など弱者にかかる問題、持続可能でない開発による環境破壊など。地球規模の構造的な課題なので、途上国だけでは解決できません。

● 平和と安全

核兵器や生物化学兵器など、国境に関係なく被害を及ぼす兵器の根絶、テロの問題、地域紛争の解決と平和維持、児童兵士の問題などです。

● 人権

民族差別や紛争などにおける難民の問題、貧困と開発のために過剰な労働を強いられる女性や子どもの問題、人間として最低限必要なものさえ保障されない極度の貧困の問題などです。

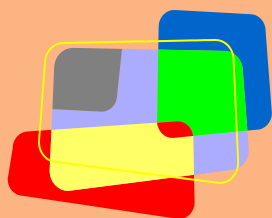
地域の課題と地球の課題はつながっている ～「持続可能な」社会を創るため～

地域の課題と地球の課題は別のもので考えてしまいがちですが、だれもが暮らしやすい「持続可能」な社会を創るという意味では共通しています。また、地域の課題を解決していけば地球の課題の解決にもつながりますし、地球の課題を解決しなければ、地域の未来もないのです。

地域の課題も地球の課題も「だれかが解決してくれる」ものではありません。途上国の多くの課題も原因を突き詰めていけば、わたしたちの日常生活につながってきます。わたしたち一人ひとりが地球の一員として、地域の一員として、自分の問題として、解決に向けて取り組んでいかなければ、次世代に課題を持ち越してしまうことになるのです。



参 考 资 料



目で見るモンゴル



自由と主権を表す独自の模様が描かれています。繁栄と復活・向上を表す炎の下に神聖な太陽と月があり、三角は敵を倒す意思を、上下の長方形は前進と高潔さと、左右の長方形は国民の支え合いをそれぞれ意味しています。巴は協力と知恵、男女の象徴です。赤は歓喜と勝利、青は不変の大陸と国民の献身・忠誠の色です。

●人口●

 263万5,200人 (2007年)



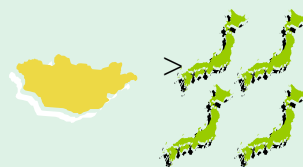
 128百万人



●面積●

 1,564,100km²
(日本の約4倍)

 377,887km²



●言語●

モンゴル語、カザフ語

●宗教●

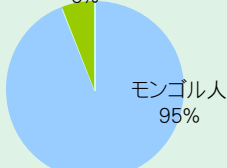
チベット仏教
(ラマ教) など

●気候帯●

砂漠気候、ステップ気候

●民族●

カザフ人など
5%



●通貨●

トグログ (MNT)
1ドル=1,147トグログ
(2008年9月)

●平均気温●

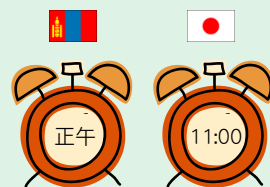
ウランバートル 名古屋
-1.3℃ 15.4℃

●年間降水量●

ウランバートル 名古屋
281.7mm 1565mm

●日本との時差●

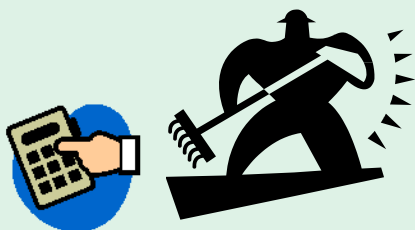
-1時間



◆国旗:『世界の国旗』吹浦忠正監修 (Gakken) ◆人口・面積・首都・民族・通貨:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」◆日本の人口:世界子供白書2008 (ユニセフ) ◆日本の面積:総務省統計局「日本の統計」◆気候帯・平均気温・年間降水量:外務省ウェブサイト「探検しようみんなの地球」◆名古屋の平均気温・年間降水量:気象庁観測部観測課観測統計室「日本気候表」(S46~H12年の平均) ◆言語・日本との時差:世界の国一覧表 (財団法人世界の動き社)

●主要産業●

商業、鉱業、牧畜業、軽工業



●日本との貿易主要品目●



繊維原料、銅、繊維製品



一般機械、乗用車、
建設・鉱山用機械、トラック

●一人あたりのGNI●

1,288米ドル (2006年世銀)



38,410米ドル (2006年世銀)



●在留邦人数●

345人 (2008年7月現在)



●在日当該国人数●

3,732人 (2007年12月現在)

●出生時の平均余命●



66年



82年



●都市人口の比率●



57% (2006年)



66% (2006年)

●5歳未満児の死亡者数● (出生1000人あたり)



2人 (2006年)



4人 (2006年)



●成人の総識字率● (2000～2005年)



98%



●初等教育 純就学/出席率 (2000～2006年)



97%



●人口増加率● (1990～2006年)



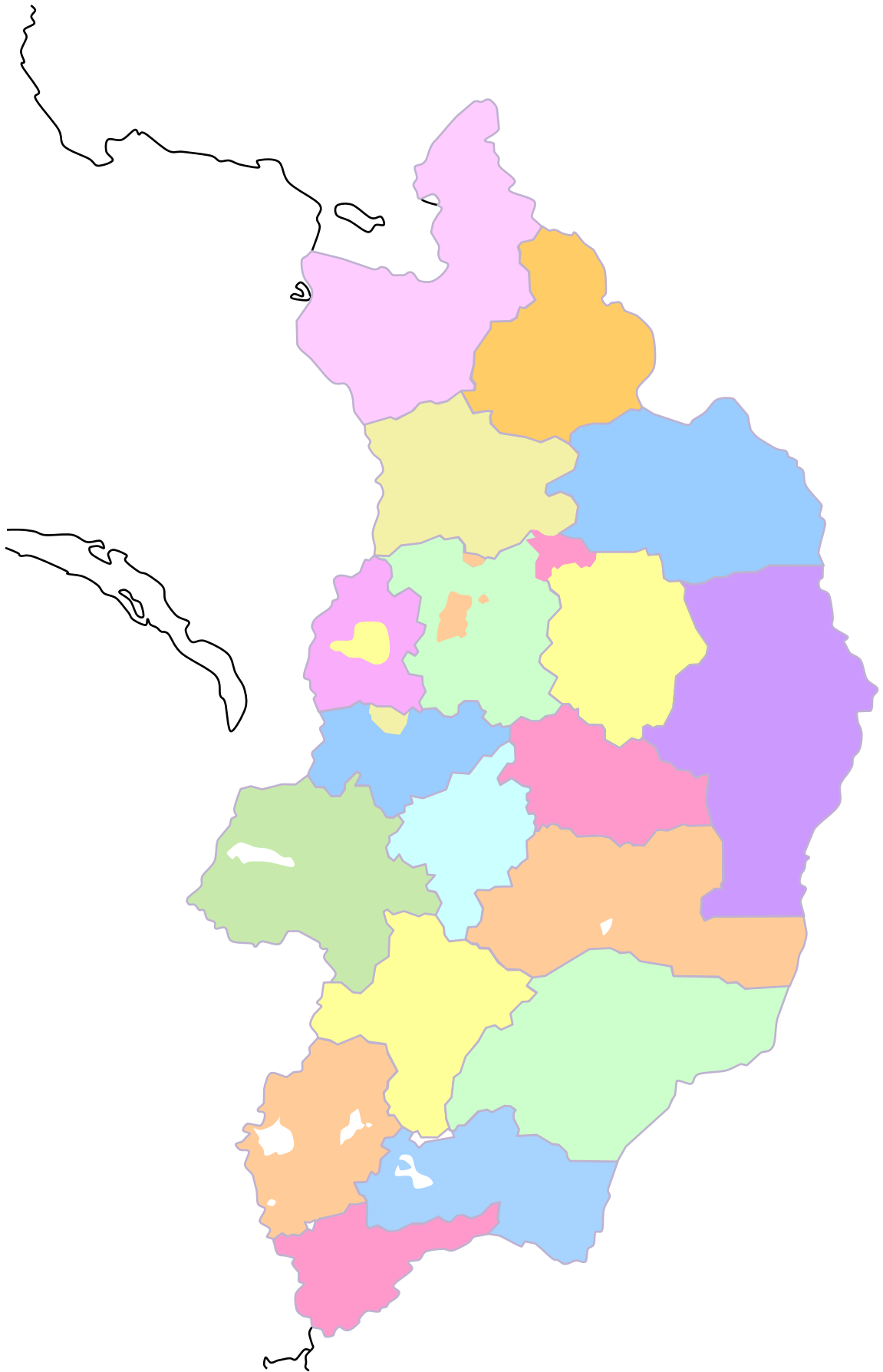
1.0%



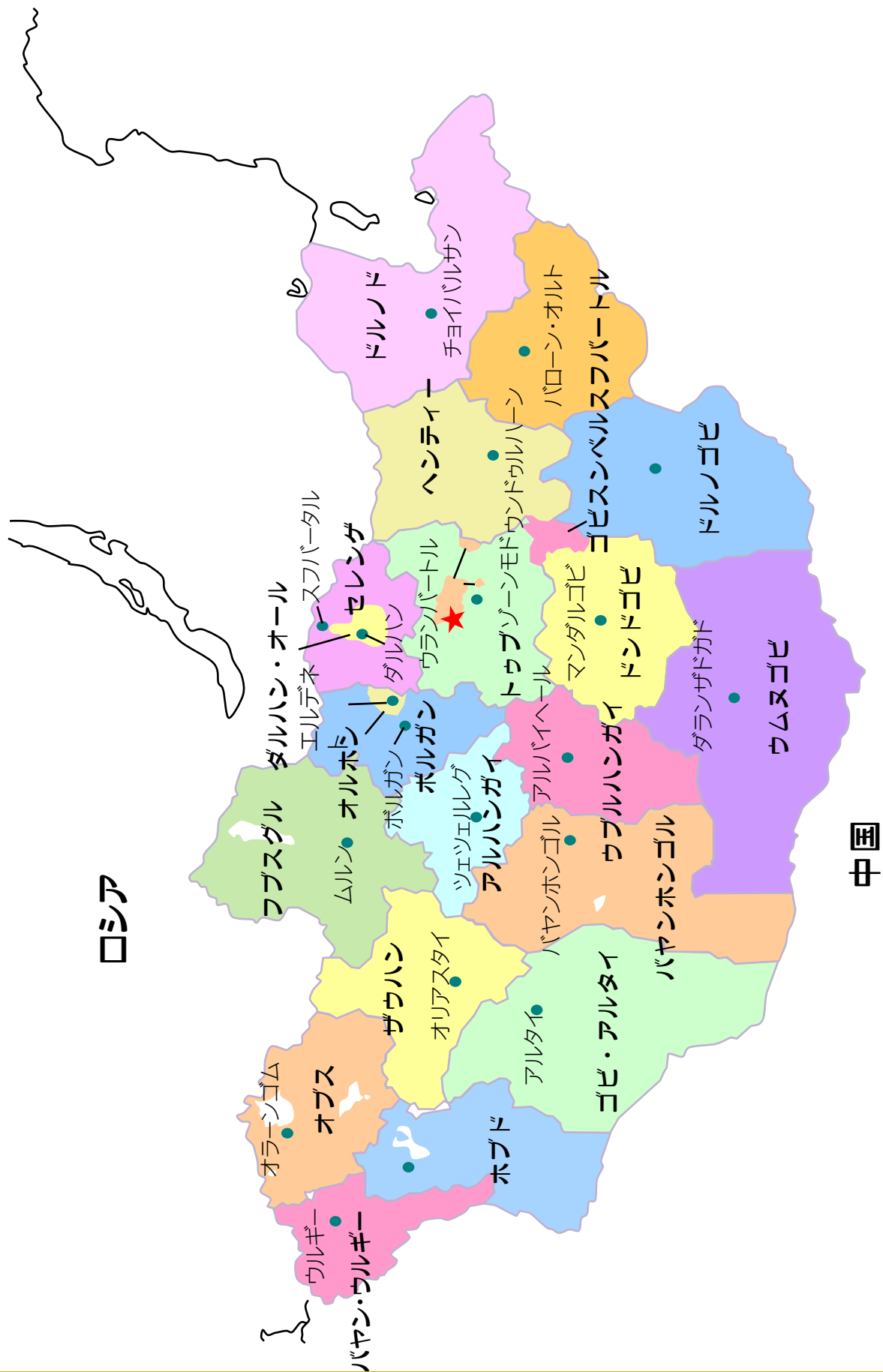
0.2%



◆主要産業・日本との貿易主要品目・在留邦人数・在日当該国人数：外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」◆一人あたりのGNI・出生時の平均余命・都市人口の比率・5歳未満児の死亡者数・成人の総識字率・初等教育純就学／出席率：人口増加率：世界子供白書2008 (ユニセフ) ◆成人の総識字率：ナショナル・ジオグラフィックウェブサイト



モンゴル地図





参考文献・データ等の出典

- 国連開発計画 (UNDP)
<http://www.undp.or.jp/>
- 外務省「各国地域情勢」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>
- 外務省「探検しよう! みんなの地球」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyuu/index.html>
- 総務省統計局「日本の統計」
<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>
- 文部科学省
<http://www.mext.go.jp/>
- 独立行政法人国際協力機構中部国際センター
<http://www.jica.go.jp/chubu/index.html>
- 財団法人日本ユニセフ協会『世界子供白書2008』
<http://www.unicef.or.jp/library/index.html>
- 駐日モンゴル国大使館ホームページ
<http://embmong.com/>
- 大相撲情報局
http://sumo.goo.ne.jp/ozumo_joho_kyoku/index.html
- 『子どもの権利条約で考える世界の子どもたち—25人の物語—
あたたかい「家」が欲しい』 ジーン・ハリソン著 今西大 日本語訳
Save the Children(UK) 監修 すずき出版
- 『できるぞ!NGO活動 ストリートチルドレンを見つめる 子どもの権利と児童労働』
石原尚子 著 こどもくらぶ 編 ほるぷ出版
- 『世界の中学生9 モンゴルの中学生』 学研
- 『世界の子どもたちはいま17 モンゴルの子どもたち』 学研
- 『ワールドカルチャーガイド22 モンゴル 草原の国を好きになる』
WGG編集室 編集 株式会社トラベルジャーナル
- 『モンゴルのストリートチルドレン 市場経済化の嵐を生きる家族と子どもたち』
長沢孝司・今岡良子・島崎美代子 編集
- ユニセフの開発のための教育 地球市民を育てるための実践ガイドブック
財団法人 日本ユニセフ協会 ユニセフ日本委員会
- わたしの権利みんなの権利 It's only right!
- 児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)を学ぶための実践ガイド
財団法人 日本ユニセフ協会 ユニセフ日本委員会
- 地球のともだち ユニセフワークブック
財団法人 日本ユニセフ協会 ユニセフ日本委員会

ご協力いただいた方【敬称略】

- 寺田美穂 (JICA青年海外協力隊OG)



2008年度教材作成チーム

一宮市 田原市
長久手町 幸田町
扶桑町

特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

財団法人 愛知県国際交流協会





わたしたちの地球と未来



モンゴル国



2009年3月

発行

愛知県

**企画
編集**

財団法人 愛知県国際交流協会

〒460-0001

名古屋市中区三の丸二丁目6番1号

あいち国際プラザ

TEL: 052-961-8746 FAX: 052-961-8045

E-mail: koryu@aia.pref.aichi.jp

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp>

印刷

サンメッセ株式会社



